

緊急時（悪天候など）における講座の取扱いについて

P.12～13の取扱いについては、大学から個別に連絡をいたしません。各自で気象情報等を収集した上で、措置の有無については大学公式Webページ等を確認してください。

本取扱いの内容に変更が生じた場合は、南山エクステンション・カレッジWebページ等でお知らせします。

暴風警報発表時の講座について

愛知県尾張東部地域または同地域のいずれかの市町村に「暴風警報」または大雨、暴風、暴風雪、もしくは大雪に関する「気象特別警報」が発表された場合、講座の取扱いとは次のとおりとします。なお、警報が発表されていない場合でも、気象状況が時間の経過とともに悪化し、数時間後には警報の発表が十分予測されるときは、休講の措置を行うことがあります。措置の有無については、大学公式Webページ等に掲載します。

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ① 午前6時より前に解除の場合 | : 午前中から平常どおり開講 |
| ② 午前6時以降、午前10時より前に解除の場合 | : 午前中は休講、午後から平常どおり開講 |
| ③ 午前10時以降、午後1時より前に解除の場合 | : 午後5時から平常どおり開講 |
| ④ 午後1時以降に解除の場合 | : 当日の全ての講座は休講 |
| ⑤ 講座開始以降に発表された場合 | : 大学の指示による |

(注)「尾張東部に発表」とは、愛知県における警報発表区分の

- ① 尾張東部
- ② 愛知県西部全域
- ③ 愛知県全域、のいずれかに警報が発表された場合が該当します。

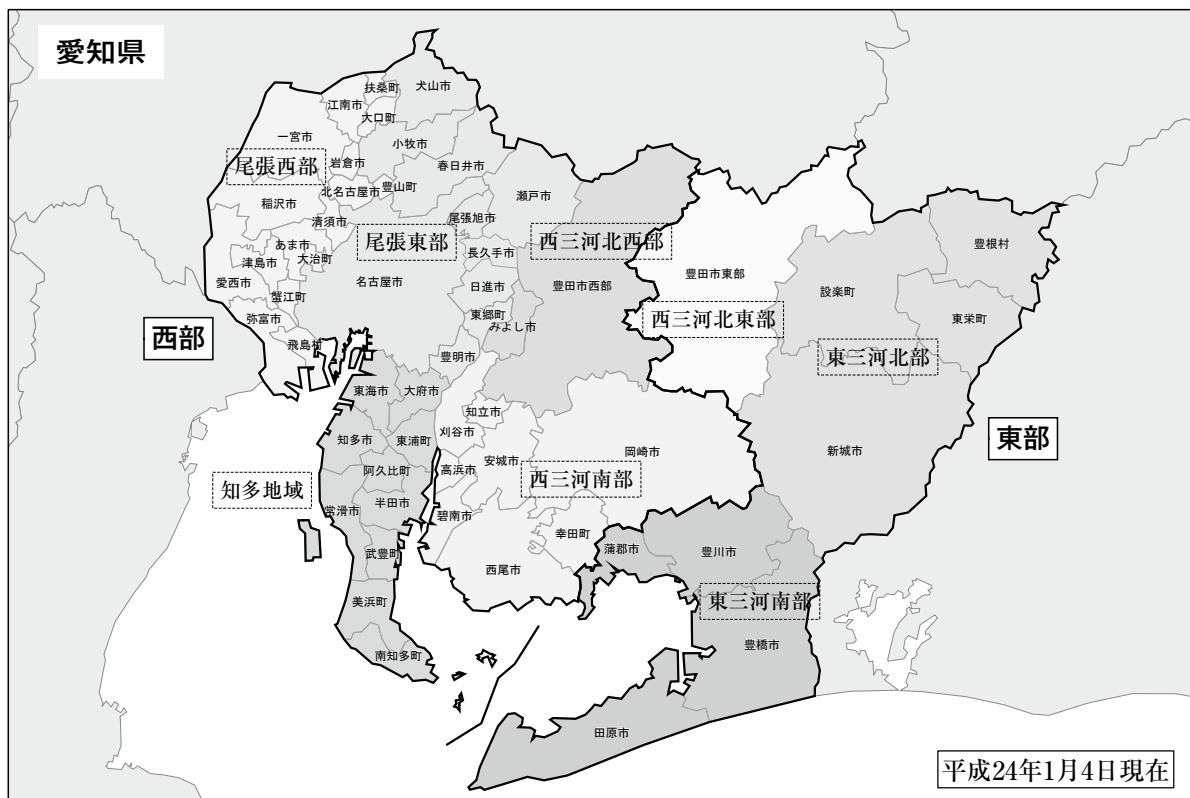
オンライン開講の講座については暴風警報等が発表された場合でも原則として平常通り講座を実施します。ただし、ネットワークの不具合等、講座の実施が困難な場合には、休講とする可能性があります。また、避難を必要とする地域に居住する場合などには、安全を最優先して行動してください。

公共交通機関のストライキ時の措置について

名古屋市営交通機関のストライキの場合 : 「暴風警報発表時の講座について」の措置に準じる。

JRおよび私鉄のストライキの場合 : 平常どおり開講

愛知県警報発表区分



大規模地震について

「南海トラフ地震臨時情報」※が発表された場合の講座の措置等について

「南海トラフ地震臨時情報」に付記されるキーワードごとの講座の措置

情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」等の形で情報が発表されます。

「南海トラフ地震臨時情報」に付記されるキーワード	発表に伴う講座の措置	発表解除に伴う講座の措置
調査中 「南海トラフ沿いの地殻に関する評価検討会」が開催された場合に発表される。	①発表があった場合でも、講座は平常通り実施。	
巨大地震警戒 想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価された場合に発表される。	①講座開始前に発表があった場合は登校せずに、自宅待機。登校途中であれば速やかに帰宅。 ②講座開始後に発表があった場合は講座は中止し、速やかに帰宅。	解除された日の翌日から講座を平常通りに再開。
巨大地震注意 ・監視領域内において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生したと評価された場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く）に発表される。 ・想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価された場合に発表される。		

※「南海トラフ地震臨時情報」発表条件（気象庁Webページより）

南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合・観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

緊急地震速報が流れた際の対応について

緊急地震速報

南山大学では、受講生の皆さんの安全の確保と地震の被害を最小限度に食い止めるため、キャンパス内各所に緊急地震速報装置を設置しています。緊急地震速報放送後地震の強い揺れが来るまでは数秒～数十秒しかありません。その短い間に身を守る行動ができるよう、常に心の準備をしておく必要があります。

地震が発生した場合の避難方法

主震はおおむね1分以内です。揺れている間はむやみに外へ飛び出さず、次のような方法で避難してください。主震後の余震を考えて落ち着いて行動してください。なお、学内の建物は耐震設計となっていますから一般に予想されている地震の際は建物内の方が安全です。

(1) 建物の中にいる場合

- 1) 教室内：まず机の下にもぐって、机の脚につかまり身を守る。
- 2) 廊下・ロビー：落下物に気をつけて頭を守り中央部にしゃがむ。窓ガラスから離れる。近くに教室があれば急いで机の下にもぐる。
- 3) 階段：頭を守りその場に伏せる。

(2) 建物の外にいる場合

建物の近く、ブロック塀・石垣・バックネット・ゴール・電柱・建物のピロティの部分、ガラス、ルーバー（コンクリート製日よけ）等の倒壊・落下のおそれのある場所から急いで遠ざかる。

緊急地震速報が流れた時（設定震度4） 男性の声で2回サイレン×3「地震波を探知しました。落ち着いて安全な所で待機してください」	ゆれが収まった後		避難安全確認後
身の安全確保を最優先する	避難経路に従い、避難場所に集合する グラウンド、バスケスクエア		帰宅
○教室・研究室・事務室・食堂など室内にいる場合は、慌てて外へ飛び出さず、頭を保護し、机の下に身を隠し、揺れに備える。 ○体育館・廊下・階段など、落下物から身を隠すものがない場合は、ガラスなどの落下物に注意し、できるだけ中央に伏せ、揺れに備える。 ○図書館などでは、本棚から離れる。 ○屋外にいる場合は、校舎や他の建造物などから離れ、できるだけ中央に伏せ、揺れに備える。 ○余裕があれば、出入口や窓を開けて避難口を確保する。使用中の火を消す。	地震発生時（震度を問わない）	◎避難経路に従い、周りの受講生と協力しながら、避難場所へ集合する。 ◎エレベータは最寄りの階で停止するので、すぐに降り、階段を使って避難場所に集合する。もしも、エレベータ内に閉じ込められた場合には、エレベータ内の緊急電話で連絡を取る。 ◎火災が発生した場合は、初期消火に努める。	◎災害対策本部からの指示があるまで、避難場所等で待機する。
	誤報の場合	◎数秒後にキャンセル報が、自動的に流れる。「サイレン×3 先ほどの地震速報は誤りでした」×2回	